

たぐち ひろゆき  
田口 廣之 議員

## 野生鳥獣との共生 について

近年、野生鳥獣の農作物の被害が取りざたされている。その中で鹿は銃、くくりわな等で駆除されている。キツネはわな、銃等で駆除されているが、野生鳥獣の生態系は増えすぎによるもの、被害があつてのもの等、理由はさまざまである。特にキツネは牛等家畜を襲ったり、エキノコックスの心配がある。

生態系が狂って被害が起きていると思うが何点か伺う。

- ①町として野生鳥獣の被害に対する取り組みと対応、対策状況の把握について。
- ②町、民間のヘリコプターによる殺鼠剤散布状況について。
- ③エキノコックスに対する取り組みについて。



箱わなにかかったキツネ

**再質問**  
①エキノコックスの駆虫薬の周知について。  
**答**北海道からガイドラインが出ているので、駆虫薬の周知を図っていききたい。  
②無線LAN、衛星ブロードバンドサービスの見直しについて。  
**答**無線LANの開始時期は現時点で不明であるが、衛星ブロードバンドは受信設備があれば利用できるが、設備に金額が掛かる。今後も各農協と相談していききたい。

**町長** ①町の対応は、シカは、銃による駆除、キツネは、銃と箱わなによる駆除を実施している。被害状況の把握は、H20年と22年にアンケート調査を実施し、H22年の調査概略で総体の被害額は、20年とほぼ横ばいの7000万円程度だが、被害面積は27%程度の増加、被害家畜の牛の頭数は23頭から39頭と、増加傾向にある。民家周辺や市街地に出没するキツネについては、箱わなを仕掛けるしか方法がなく、対応に苦慮している。今後も、住民の皆さんの協力を得ながら、きめ細かな駆除に努めていきたい。

②殺鼠剤の散布は、年に一度11月ころに、土壌や河川など環境に対する負荷の少ない燐化亜鉛剤を町有林等1100haに散布している。また、野ネズミの防除は、北海道防除実施基準に基づき、殺鼠剤の散布前に野ネズミの発生予察調査を行い、実施している。③町では、小学3年生・中学2年生には無料で、一般希望者には一部自己負担をいただき、血液検査を実施している。今後とも各種健診に合わせたの啓発、HPの活用、広報紙により、予防についての注意、意識の啓発に努めていきたい。

## ライフラインの 整備状況について

農村では未だにパソコン等の使用に際して、ダウンロードに時間がかかり非常に不便さを強いられている。また、水道も自宅の引き込みが多額の費用負担になる等、利用を躊躇している。利用を希望している町民の利便性の向上に向けて、町の考え方と取り組みを伺う。

- ①光通信の普及状況と今後の見直し対応。
- ②水道普及状況、新たな利用者に対する対応。

**町長** ①普及状況は、幕別・札内市街地には光通信、幕別・札内・糠内・忠類市街の半径4〜5km以内でADSLが提供されている。光ファイバー網を整備するには多額の費用が必要なため、整備が進んでいない状況である。今後、無線LANや衛星ブロードバンドサービス等の研究を進めていきたい。  
②給水区域として、上水道区域・簡易水道区域・利用組合等の専用水道区域があり、区域内普及率は96・85%ととなっている。新たに給水をする場合、配水管から距離が長い場合費用が多額となるが、利用者の財産である給水管への町の負担は難しい。